

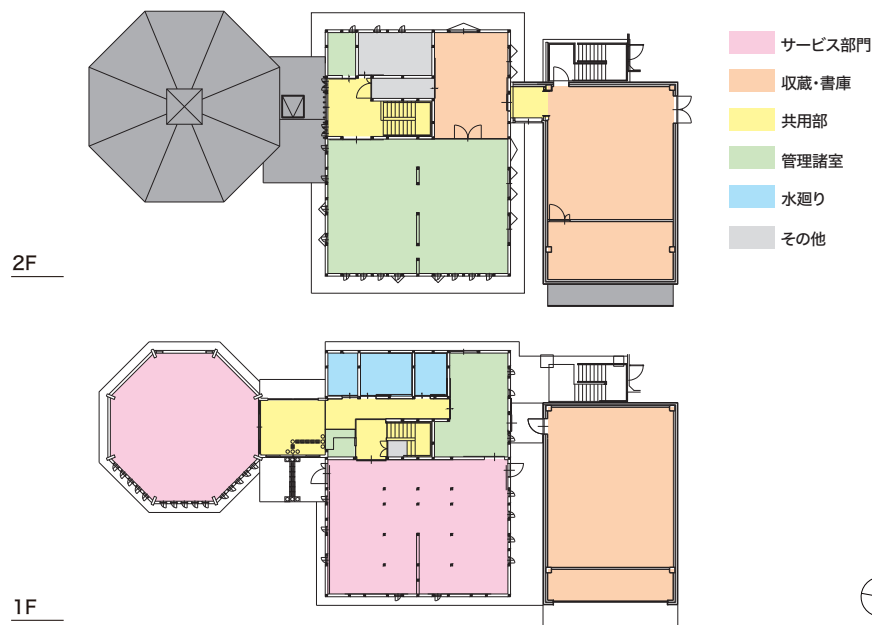
設計担当者紹介



(株)久慈設計 久慈設計東京支社 取締役専務執行役員東京支社長
一級建築士(管理建築士) 梅澤 裕介

志木市は、「志木地区」と「宗岡地区」で各々成り立ちが異なる歴史があり、江戸時代には舟運の要衝として発展しました。一方で、かっぱ伝説や富士信仰といった特色ある文化などが伝わる、歴史的的魅力に富む地域です。本事業は、発掘などで現在も増加する歴史的資料を、今後も保管できるよう可能な限り容量を確保することを主眼とした増築計画となりました。敷地の高低差や既存建物との接続、狭小な敷地といった複数の困難の中、設計に至っては市各担当者様、工事にあたっては施工会社様のご尽力とご協力で、この度無事工事の完成となりました。多様な歴史と江戸を支えていたこの志木市が、益々住みやすく文化的な地域であり続けることを祈念いたします。

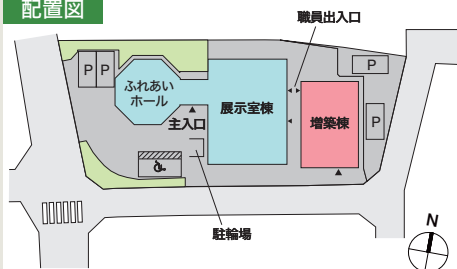
平面図



志木市歴史館 10月26日(月)グランドオープン!

所在地	埼玉県志木市柏町1丁目20-19
アクセス	東武東上線「志木駅」より徒歩約20分、 東武東上線「柳瀬川駅」より徒歩約16分
問合せ先	TEL 048-473-8157 FAX 048-471-3576
入館料	無料
開館時間	9:30~16:30
休業日	月曜・年末年始、館内整理日(毎月末日)、特別整理期間

配置図



Always with a SMILE!

2026
10月号
Vol.259

特集

—— 地域の歴史を未来へつなぐ ——

埼玉県志木市(仮称)文化財センター 増築等工事設計監理業務

10月26日(月) グランドオープン!



KUJI ARCHITECTS STUDIO
株式会社 久慈設計
(一級建築士事務所)

KUJI HIGASHINIHON ARCHITECTS STUDIO
株式会社 久慈設計 東日本
(一級建築士事務所)

บริษัท คูจิ เซคเค ไทย จำกัด
KUJI SEKKEI THAI CO., LTD.
Bangkok

Always with a SMILE!

発行責任者 株式会社 久慈設計
住 所 / 岩手県盛岡市紺屋町3-11
TEL / 019-624-2020

公式HP
トップページ



公式HP
リクルートページ



「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」

久慈設計は「Fukushima with a SMILE!」を通じて福島県の魅力を発信していきます。





(仮称)文化財センター 増築等工事設計監理業務

- 施 工 地／埼玉県志木市柏町1丁目20-19
- 竣工年月／2026年8月
- 敷地面積／899.79㎡
- 延べ面積／増築棟：193.27㎡、既存棟：398.67㎡
- 構 造／増築棟：S造 2階建、既存棟：木造 2階建
- 駐 車 場／3台（うち、車いす使用者用駐車場1台）



歴史を「収める」建築

埼玉県南西部に位置する志木市は、柳瀬川や新河岸川などの豊かな水辺に恵まれ、古くから人々の暮らしと交流の場として発展してきたまちです。江戸時代には新河岸川の舟運を背景に河岸場が設けられ、地域の産業や文化を支える重要な拠点として栄えてきました。その長い歴史の中で育まれた文化は、現在も市内のさまざまな場所に受け継がれています。田子山富士塚や旧村山快哉堂、いろは樋などの文化財は、先人たちの信仰や暮らし、地域の営みを今に伝える貴重な財産です。これらの文化財は、単に過去を保存するものではなく、地域の記憶を次の世代へと伝える「まちの財産」として、志木市の歴史的・文化的な風景を形づくっています。

この度、郷土資料館と埋蔵文化財保管センターを複合化し、郷土資料を総合的に保存活用、郷土の歴史・文化に対する市民の理解と関心を高める拠点となる「志木市歴史館」の整備事業に久慈設計が参画をさせていただきました。長い年月をかけて受け継がれてきた文化の記憶を礎に、ここから新たな人のつながりと文化が育まれ、次の時代へと受け継がれていくことが期待されます。



増築棟(収蔵棟)



郷土資料を後世に継承する展示品

収蔵機能の拡充

本施設は、周辺が低層住宅地であることから、住環境との調和を重視しました。建物は道路から離れた位置に配置し、必要な収蔵量を確保しながら建物高さを抑えることで、周辺への圧迫感を軽減しています。また、既存建物との接続位置や敷地内の外部空間についても検討し、限られた敷地を有効に活用しました。敷地周囲の高低差に対しては、道路からのアクセスや資料搬入経路にも配慮し、施設全体の動線を計画しています。

構造計画では、限られた建築面積の中で最大限の収蔵量を確保するため、シンプルな構造計画としながら、収蔵資料による大きな荷重を支えられる計画としました。増築棟を鉄骨造とすることで、施工時の周辺環境への負担を抑え、短期間での躯体施工にも配慮しています。

収蔵棟の収蔵効率を高めるため、電動式の集密棚を採用しました。2階には高所まで資料を収納できる棚を設けていますが、通常の脚立では資料の出し入れが困難となるため、垂直方向に移動する人荷台（ピッキングリフト）を導入しました。リフトが安全に走行できるよう必要なスペースを検討し、集密棚の配置を決定しています。計画にあたっては、メーカーの協力を得て実機を操作し、走行軌跡を確認することで、必要な通路幅を検証しました。

展示の空間構成

展示室は、もともと収蔵庫として使用されていた空間を、郷土資料館の機能移転に伴い、新たな展示室として整備しました。

限られた空間を有効に活用するため、既存の木柱を活かした展示配置とし、より多くの資料を効果的に展示しながら、来館者がゆっくりと見て回れる動線を計画しています。また、利用する来館者の動線と、収蔵棟で資料を搬入・保管する作業動線を明確に分けることで、一般利用と資料管理の双方に配慮した施設構成としました。さらに、大型で比較的強度のある歴史資料については、外部から直接搬入できる倉庫を設け、資料の特性に応じた保管にも対応しています。



玄関ホール・受付・廊下(改修)



ふれあいホール(改修)



2F 収蔵室(増築)



市の歴史を紹介する「展示室」(改修)